



MEL ニュース

(2019年1月 第10号)

(一社) マリン・エコラベル・ジャパン協議会
事務局

皆様明けましておめでとうございます。

相場の格言で「固まる」亥年が動き出しました。日本では、大イベントが続きますが、現代社会では、誰もがイベントを盛り上げる主人公です。

今年は、人類が月面に着陸してから 50 年、この壮挙は月に行くという強い意志が実現させました。また、私たちに「成長の限界」を提案したローマクラブが設立されてからこれまた 50 年、自らが持続的社會をつくるという意志の主体者になることが求められて既に半世紀が経とうとしています。

日本の水産業も大きく変わろうとする中、多様性という日本ならではの強みを梃に、大イベントを支える主役となる意志を持って今年を輝く年の入口にしたいと念じています。

本年の皆様の益々のご活躍をお祈りします。

1. GSSI 承認関連

GSSI 承認関連は想定範囲内で進んでいます。認証機関である日水資の JAB 認定は今月末に認定委員会が開催される予定です。タイトなスケジュールの対応いただいた JAB ならびに日水資に深謝申し上げます。MEL は、GSSI の審査員 (Independent Expert) との最終の詰めが、漁業、養殖については、2月5日に日本で行うことが予定されており、このスケジュールに合わせ2月6日に MEL が主催するワークショップを開催します。ガバナンスとスキーム管理の審査は、MEL については2月18日に事務所訪問を含め実施、日水資と JAB は翌2月19日で決定しました。その後、審査員によりベンチマーク委員会に対し審査報告が提出され、審査のプロセスは3月末に開催が計画されているベンチマーク委員会での審議、次いでパブコメに移ります。

2. 新規格による認証

新規格による認証が進み始めました。既にご報告しております通り、11月に養殖、流通加工各1件が、12月に漁業1件が認証されましたが、1月には漁業(由比港漁協、大井川港漁協様のサクラエビ2そう曳網漁業の新規格への

移行審査)、養殖(ヨンキュウ様のマダイ種苗陸上養殖の新規審査)、流通加工(中央魚類様の新規審査)の3件を審査機関のJAB認定の立会を兼ねて行い、3件とも問題なく終了することが出来ました。このことは新規格の実用性、審査員の新規格への対応、3件の事業者の皆様が事業運営が申請通り行われていることを裏付けるものであり、今後の旧規格からの移行ならびに新規審査がスムーズに行え、皆様のご期待に応えられるものと心を強くしました。新年早々にも拘わらずお引受けいただいた3社の皆様にお礼を申し上げます。なお、日水資による認証授与式は3月6日(水)に執り行われる予定です。

3. 審査体制について

1月23日に規格委員会を開催し、GSSIへの承認申請以来先方の審査員(IE)と詰めてきたことにつき、委員の皆様にご説明し、2月5日に予定しておりますIEとの最終の打合せに当たってのご意見をいただきました。

このことを受けて、2月7日に理事会を開催し、規格の管理運営に関わる規定や規格関連文書の微修正の承認と世界の水産エコラベルを取り巻く情勢へのMELの対応につきご報告し、了承をいただきます。

新規審査員の研修は、1回目が漁業および流通加工で3月5~7日。2回目が養殖および流通加工で3月12~14日で開催を予定しております。

2月1日より参加者の募集を開始します。募集要項は大日本水産会のHPに掲載されます。

この研修を通し、新たに20~30名の審査員の資格を持つ方々が生まれることを期待しており、MELにとって認証機関の複数化を含め、審査体制に厚みが増すになり、国際標準のスキームとして一步前に進むこととなります。

4. MEL 認証取得のための講習会

1月の開催は沖縄と鹿児島で2件でした。沖縄は、沖縄産品を積極的に取り扱っておられる広島県の(株)クラハシ様の天野社長以下幹部が参加され、MELの漁業認証および流通加工認証を取得者でもあり、クラハシ様が出資しておられるマリンリンク(株)を交え真剣なやり取りがあり2時間はとても短く感じました。まだ取得されていない参加者の反応も前向きでした。

鹿児島は、主催が県の「水産物等輸出促進協議会」で、水産庁企画課から竹越課長補佐が出席された関係もあり、行政から多数出席いただき先月の福岡とは一味違う講習会になりました。また、講習会に先立ち東町漁協を訪問し現場サイドからの意見をうかがうことが出来ました。頂戴したパンフレットには、養殖魚で世界初のHACCP認証取得、日本初のEU諸国への輸出実現し世界で認められた「鰯王」と誇らしく書かれており、ご関係の皆様

不断の努力が忍ばれました。同時に、今回の MEL の養殖認証取得で輸出には一段とドライブがかかることになる予感を持ちました。（もちろん、GSSI の承認が得られてのことですが・・・）

今後出来る限り現場を見せていただきながら、広範な意見交換を通し認証取得者の皆様のお役にたつことを考えて行きたいと思えます。

なお、今後の予定は大日本水産会および MEL の HP でご案内しておりますが、2月7日石川県（金沢市）、2月14日三重県（伊勢市）、2月20日大阪府（シーフードショー大阪会場）、2月26日愛媛県（宇和島市）が計画されております。是非お近くの講習会に参加をいただきたいと思えます。

5. 2020 オリパラ関連

1月18日、MEL の田村技術部長が認定 NPO 法人 GAP 総合研究所の武田専務理事と面談をいたしました。その際、武田専務より3月にオープン予定の、オリンピック食材調達基準を活用したビュッフェレストラン「グランイト銀座」(<https://asiagap.jp/graneat/index.html>) についてご紹介いただき、MEL 認証水産物のお取り扱いも視野に入れているということです。また将来的には、MEL 認証水産物を取り揃えた、MEL フェアの開催も検討し、安全かつ持続的な農作物と水産物のコラボレーションにより、双方を消費者の方々に広めていく機会を増やしていければと考えているとのお話をいただきました。MEL としては前向きに取り組ませていただく所存です。



資料：GAP 総合研究所 HP より

また、28日にオリパラ選手村のレストランのケータリング事業者に決まったエームサービス（株）様の仕入・物流担当の皆様にお目にかかり具体的な食材仕入に関するお話をお聞きしました。

MSC、ASC の売り込みが先行しているが、日本産食材使用に行政も積極的に動いておられ、既に各県からの働きかけだけでなく、農水省食糧産業局の

新井局長がエームサービス様の山村社長を訪問され要請していただいております。MELが当事者になる訳には行きませんが、しっかり接触して的確に情報提供をさせていただきます。

皆様ご存知かもしれませんが 東京都が中心になって立ち上げた「中小企業世界発信プロジェクト推進協議会」の「ビジネスチャンス・ナビ 2020」は入札・調達情報を一元的に集約したポータルサイトがあります。

みなさまの生産物が食材として大活躍します

ポイント 1
東京2020組織委員会の電子入札に参加できる唯一のサイト
東京2020組織委員会における調達物品・サービス等の入札手続は、原則としてビジネスチャンス・ナビ2020が活用されます。

ポイント 2
農畜水産物のPRができます
事業者情報のデータベースとなっており、サイト上で情報を登録することができます。生産物のPRにご活用ください。(詳細は裏面へ)

ポイント 3
新たなビジネスチャンスの獲得に
食材等の調達案件に対して生産者の皆様が「受注したい」と手を挙げるすることができます。

このサイトに登録をいただくと様々な情報が得られます。MELも既に登録しており、料金は無料ですので皆様にもお勧めします。

ビジネスチャンス・ナビ2020システムイメージ

食材を調達したいパートナーを見つけたい
発注者

マッチング

新たなビジネスチャンスの場に出荷したい
生産者 (農畜・畜産業・水産業)

ご登録はこちらから チャンスナビ Q検索 <https://www.sekai2020.tokyo/bcn/> ※PC専用サイトです。

「中小企業世界発信プロジェクト推進協議会」

東京都 東京商工会議所 東京都商工会議所連合会 東京都商工会連合会 東京都中小企業団体中央会 東京都中小企業振興公社

※「中小企業世界発信プロジェクト2020」は、東京2020大会等を契機とする中長期的なビジネスチャンスを国内外ともより日本全国の中小企業に波及させ、優れた製品等を世界に発信するプロジェクトです。
*「中小企業世界発信プロジェクト推進協議会」は、本プロジェクトを実行するため、上記の中小企業支援機関が連携して立ち上げたものです。

6. MELとしての対外発信。

このニュースのGSSI関連のところで触れましたし、MELのHPでもご案内しておりますが、2月6日にMEL主催で「日本発世界に認められる水産エコラベルの課題と挑戦」をテーマに、内外の関係者をお招きしワークショップを開催します。用意しました会場のキャパを超える150名の参加申し込みをいただいております、反響の大きさに驚いております。

座長は、世界的な生態、環境学者であり、MELのアドバイザリーボード座長の横浜国大の松田裕之教授にお願いしております。GSSIからは事務局長の

Herman Wisse 氏が参加します。登壇者には国内の認証事業者を代表して、漁業は北海道秋さけ定置網漁業について北海道漁連の佐藤副会長および倉地様、養殖は東町漁協のブリ養殖について山下参事および石田様をお願いし、海外からは GSSI の審査員を務めている、Dr. Joseph DeAlteris(漁業)、Dr. John Hargreaves(養殖)に海外の優良事例を紹介いただき、出来る限り日本水産業の発展に役立つ議論をしたいと思っております。GSSI から参加される 3 人にはワークショップ修了後、主として九州の漁業、養殖、研究拠点に案内し日本の水産の実態への理解を深めていただく予定です。

イベントへの参加に関しましては、2月20～21日のシーフードショー大阪に MEL として出展します。今回の認証取得者の参加は、静岡県高橋商店様(一本釣りカツオ)そして同県の宇都宮水産様(キンメダイ底立延縄)となる予定です。参加者が少し偏ってきており、全国の皆様により広くお声がけする様心掛けますので、この様な機会を生かしてご自分の認証取得商品の訴求の場としてご検討ください。

また海外でのイベントとして、3月17日から開催されるアメリカのボストンシーフードショーに MEL として出展するとともに、期間中に MEL のワークショップを開催することを企画しています。ワークショップでは、今回 MEL 初の養殖認証を取得された東町漁協様のブリ養殖を日本型の優れた仕組みとして世界にご紹介しようと準備をしております。

7. 事務局体制

事務局員の江尻が12月末で退職し、1月より新たに小林由香里が着任しました。皆様とのご連絡の窓口を務めるだけでなく、現在 MEL の弱い部分である HP を通した広報やイベントの企画・実行等も担当してもらう予定にしております。引き続きよろしくご指導をお願い申し上げます。

1月もあっという間に終わろうとしています。今月は MEL ニュースのお届けが遅れ申し訳ありません。なるべく新鮮な情報を盛り込んで、少しでも皆様の活動にお役に立つ様心掛けますので、どうか今年もご愛顧いただく様お願い申し上げます。

以上